

自然と文化科 活動記録 (公開講演会)

日時	2025年8月15日(金) 10:00~16:30	担当者
場所	クロスパル高槻 8F イベントホール 午前: 公開講演会 午後: 各委員会、全体会議、班会議 運営委員会	山田 茂美
備考	参加者数 1班 19名 2班 20名 3班 18名 4班 16名 外部 13名 合計 86名	

1. 講演のテーマ: 「ショウガ科のお話」

2. 講演者名: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授 高野 温子先生

3. 講演者略歴: 2000年大阪市立大学理学研究科 博士後期課程修了

2001年 兵庫県立人と自然の博物館 研究員

2003年 - 2004年 JICA 長期専門家として、マレーシア・サバ州
マレーシア国立サバ大学に赴任

2005年 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員

2022年3月 同退職

2022年4月 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 教授
(併任) 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員



4. 講演要旨

○ショウガ科の植物の紹介

ウコン、カルダモン、シュクシャ等が属する单子葉植物

世界の汎熱帯～亜熱帯域に約 1200 種、日本には約 10 種類

○基本構造

葉は 2 列互性、茎は地下部分であり地上部分は葉鞘
(ヨウショウ)

花の構造は独特でした。

○分子系統解析

生物の進化的な関係を分子レベルで明らかにするための解析手法で、従来の形態学的な手法に比べ、より直接的・客観的に進化の道筋を示すことができる。

それによると、日本、韓国、台湾のミョウガは近いが、中国のそれは別系統と考えられる。

○日本に生育する植物の進化史を正しく明らかにすることは大切である。



5. 所感

ミョウガの多様性に驚き、花の美しさに魅せられた講演であった。

しかし、非常に専門的で、高度な内容のため理解が困難であった。

また、分類の難しさ、面白さ、思っていたよりダイナミックなところが伝わってきた。

分類は学問的、客観的、中立的であらねばならず、声の大きさや権威にゆがめられてはいけな
い最後に言われたのが印象的だった。